

植 調 協 会 だ よ り

◎ 会計監査について

昭和59年5月9日(水)、昭和58年度事業の実施状況・収支決算につき監査を受けた。

◎ 第47回役員会開催す

昭和59年5月23日(水)、植調会館3階会議室において開催され、次の議案につき審議可欠された。

1. 昭和58年度事業報告及び決算報告承認の件
2. 昭和58年度剰余金処分承認の件
3. 植調研究所水田用地購入の件
4. 昭和59年度事業計画及び予算承認の件
5. 当協会設立二十周年記念式典開催の件

1. 昭和58年度事業報告及び決算報告承認の件

1) 昭和58年度事業報告について

(1) 一般事業に関する事項

- ① 第45回役員会(昭和58年5月25日開催)
第46回役員会(昭和58年12月20日開催)
- ② 監査(昭和58年5月10日実施)
- ③ 評議員会(昭和58年9月21日開催)

(2) 受託・委託試験研究事業に関する事項 ア. 特別研究

- ① 水田除草剤使用合理化に関する試験(継続)
体系是正試験……前年度に引き続き本年度更に5剤が新たに実用化可能となり使用基準が作られた。また既登録の4剤について本年度は合計約28万haの普及がみられた。
- ② 水田雑草発生診断法に関する試験(継続)
残存雑草量より次年度の発生量の推定、また雑草の発生量と水稻生育、収量の関係を明らかにし、除草剤の効率的用法を確立する

ために、全国11場所で試験を実施した。

③ 水稻倒伏軽減剤の開発に関する試験(継続)

昭和56年度に作用性試験を開始し、昭和57～58年と作用性、適用性試験を実施した。(草丈10～25cm短縮) 水稻倒伏軽減効果があることが判った。

④ 畑地用細粒剤の開発に関する試験(継続)

本年度は定性試験に1剤、作用特性試験に4剤、適性試験に7剤が供試された。
除草効果・効力の持続性など共に優った。
本年度新たに4薬剤が実用化可能と判定された。

イ. 受託試験

- ① 除草剤抵抗性に関する生理生化学及び電子顕微鏡学的研究(終了)
- ② 除草剤水産動植物生体内蓄積調査技術確立に関する研究(終了)

前年度の予備調査をもとに本年度は、茨城県の澗沼水系と福島県松川浦水系について蓄積実態を調査した。

ウ. 受託・委託試験

- ① 除草剤および生育調節剤の薬効・薬害試験
昭和57年度秋冬作関係…… 317点(64薬剤)
昭和58年度春夏作関係…… 2,997点(447薬剤)
- ② 除草剤および生育調節剤の試験結果
 - ① 昭和57年度秋冬作関係……64薬剤のうち
「実」5薬剤、「実・継」34薬剤、「継」24薬剤、「継？」1薬剤
 - ② 昭和58年度春夏作関係…… 447薬剤のうち
「実」78薬剤、「実・継」187薬剤、「継」173薬剤、「継？」7薬剤、「中止」2薬剤
 - ③ 昭和58年度普及適用性試験…… 673件
 - ④ 昭和58年度農薬作物残留分析試験……54件

㊦ 昭和58年度農薬土壌残留分析試験……11

件

2) 昭和58年度収支決算報告について

(1) 公益事業会計

収 入	27,202,166 円
支 出	20,815,447
当期剰余金	6,386,719

(2) 公益委託試験会計

収 入	834,789,053 円
支 出	811,118,730
当期剰余金	23,670,323

(3) 公益事業会計

収 入	12,901,926 円
支 出	12,286,611
当期剰余金	615,315

(4) 公益特別試験会計

① 除草剤抵抗性に関する生体化学及び電子顕微鏡学的研究（農林水産業特別試験研究費補助金）

収 入	5,030,044 円
支 出	5,030,044

② 除草剤水産動植物生体内蓄積調査技術確立委託費（農業振興対策調査等委託費）

収 入	4,464,551 円
支 出	4,464,551

2. 昭和58年度剰余金処分承認の件

(1) 公益事業会計当期剰余金 6,386,719 円
うち、5,000,000 を協会準備金へ繰り入れ、1,386,719 を次期繰越剰余金とする。

(2) 公益委託試験会計当期

剰余金 23,670,323 円

(3) 収益事業会計当期剰余金 615,315 円

(2)・(3)については、次期繰越剰余金とする。

3. 植調研究所水田用地購入の件

圃場所在地：茨城県竜ヶ崎市長淵町壱区

1103～2, 1103～1

面積：8579 m²

4. 昭和59年度事業計画及び予算承認の件

1) 昭和59年度事業計画について

【事務局】

(1) 植物調節剤の開発利用に関する調査研究

- ① 水田難防除雑草に関する研究会
- ② 水田体系是正用除草剤の開発に関する研究会
- ③ 不良環境条件下における水田除草剤使用方法に関する研究会
- ④ 水田雑草発生診断に関する研究会
- ⑤ 水稻倒伏軽減剤の開発に関する研究会
- ⑥ 水田一発処理剤の活用に関する研究会
- ⑦ ヘリ散布法に関する研究会
- ⑧ 背負式動力散布機による畦畔散布に関する研究会
- ⑨ 畑地用細粒剤の開発に関する研究会
- ⑩ 水稻の登熟向上に関する研究会
- ⑪ ぶどう花振り防止剤に関する研究会
- ⑫ 柑橘類の摘果剤に関する研究会
- ⑬ 果樹の収穫前落果防止剤に関する研究会
- ⑭ 市況調査研究
- ⑮ 除草剤の永年使用による土壌、作物、微生物に及ぼす影響に関する調査研究

- (2) 植物調節剤薬効薬害試験の受託・委託，試験成績検討会の開催，成績書の印刷，研究成果の研究・普及行政部局に対する説明，および研究会・講習会等の開催

【研究所】

植物調節剤の開発利用調査研究・試験の受託，および研修生の受け入れ

【支部】

植物調節剤の試験受託

2) 昭和59年度収支予算について

(1) 公益事業会計

収 入	96,710,000 円
支 出	96,710,000

(2) 公益委託試験会計

収 入	862,400,000 円
支 出	862,400,000

(3) 収益事業会計

収 入	13,680,000 円
支 出	13,680,000

(4) 公益特別試験会計

永年使用除草剤総合安全性確認調査技術確
立委託費（農業振興対策調査等委託費）

収 入	4,495,000 円
支 出	4,495,000

5. 当協会設立二十周年記念式典開催の件

日 時 昭和59年12月14日（金）

午前10時より

場 所 虎ノ門パストラル

（旧東京農林年金会館）

◎ 会議開催について

• 昭和59年度地域別除草剤中間現地検討会

1. 北海道（水稲、畑作、他） 6. 26～29 北農試，
中央農試他（自治会館前 8：20 出発）
2. 東北（水稲） 6. 19～20 宮城県（古川農試
11：00 集合）
3. 東北（畑作） 6. 26～27 山形県（山形駅前
12：30 集合）
4. 東海（水稲） 7. 12～13 静岡県（静岡農試
12：30 集合）
5. 近・中・四（水稲） 7. 19～20 香川県，徳島
県（香川農試 13：00 集合）

◎ 人事異動

昭和59年 5 月 1 日付

出向 ブラジル植調 鴨居 道明

昭和59年 6 月 1 日付

命 事務局技術部技術第一課長 竹下 孝史

昭和59年 6 月 23 日付

退職 研究所 技師 泉沢由起子

編 集 後 記

「天災は忘れた頃にやってくる」……と昔の人は言っているが、今年の梅雨あけは湿舌による大きな災害を受けることもなかった。しかし、異常気象の下での梅雨あけなので、今後どんな災害が襲ってくるやも知れず、十分な注意が必要である。とかく災害というと、人におよぶ災害が大きく取りあげられるが、農作物に対する被害は小さく片づけられてしまう。農作物とて、人類生存のために不可欠な食糧であり、これを欠くことは人類を餓死に導くことになる。わが国は工業の振興にウエイトをおく関係上、農業については軽視されているように見受けられるが、食糧の自給を達成した上で工業の振興に力

点をおくべきであろう。歴史の物語る異常気象に基因する飢饉の教訓を、鎖国時代の産物だと片づけてはなるまい。

財団法人 日本植物調節剤研究協会

東京都台東区台東 1 丁目 26 番 6 号

電話 東京（03）832-4188（代）

昭和 59 年 7 月 発行

植調第 18 巻第 4 号 ￥300（送料 170）

編集人 日本植物調節剤研究協会専務理事 吉沢 長人

発行人 植調編集印刷事務所 広田 伸七

東京都台東区台東 1-26-6 全国農村教育協会

発行所 植調編集印刷事務所

電話 東京（03）833-1821 番（代）